追悼文　佐藤 健さんを偲んで

広島県の佐藤 健さん（元・広島市こども文化科学館）が、本年 3 月 4 日に逝去されました。享年 79 歳でした。本会の創立時から活躍されてきた故人の在りし日を偲び、ご縁のある会員の方々に思い出をしたためていただきました。

佐藤 健さんと私

沢　武文（元天文教育普及研究会会長）

私と佐藤健さんの関係は、大雑把に云って以下の 2 つのことだけである。その一つは、私の郷里の近辺で佐藤さんが子供時代を過ごしていたことであり、もう一つは小惑星の命名に関することである。

まず、一つ目の郷里に関する件である。私の郷里は宮崎県東臼杵郡北川町（2007 年に延岡市に編入された）で、高校時代までそこで過ごした。高校は宮崎県立延岡高校で、その後東北大学に入学し、天文学を学ぶことになる。この私が最初に佐藤さんと出会ったのがいつごろだったのかは、はっきりとは覚えていないが、天文教育究会のときではなかったかと思う。私は、佐藤さんにずいぶん親しくさせていただいた。その理由は、佐藤さんが 2 歳のころ、彼の父親が旭化成に転職したことで延岡市に居住し、佐藤さんは中学 3 年まで延岡市で過ごしていたからである。延岡市は宮崎県第二の都市であり、私の郷里の北川町はその北隣（JR 日豊本線で 2 駅目、延岡駅から私の実家まで 12km の距離）である。つまり、佐藤さんと私は子供時代をほぼ同じ場所で過ごしていたからである。佐藤さんは私より 11 歳年上なので、佐藤さんが延岡を離れたとき、私はまだ小学校入学前であった。なので、2 人がニアミスすることもなかったと思う。それとは別に、実はもう一人、延岡に関係する天文関係者がいる。元岡山理科大学教授の田邉健茲氏である。彼も父親が旭化成に勤めていた関係で、彼が中学生くらいの時の数年間を延岡で過ごしたとのことである。そのため、天文教育研究会や天文学会の懇親会などで佐藤さん、田邉さんと私の 3 人が揃えば、旭化成の社宅がどこにあったとか、北川町の鏡山に登った時の話とか、延岡近辺の非常にローカルな話題で盛り上がったことが何度かあった。佐藤さんの自分史「昭和 13 年早生まれ」によると、佐藤さんは、高校受験では宮崎県立常富高校（現・延岡高校）と大分県立大分上野丘高校の 2 高を受験し、いずれも合格したそうである。ただ、そのときはすでに父親が単身赴任で大分に転勤しており、大分の高校に入学したとある。もし常富高校に入学していれば、延岡高校の私の大先輩となっていたのである。つまり、私と佐藤さんとの関係は、延岡というキーワードで強く結ばれていただけということである。

もう一つの関係は、小惑星の名前に関する件である。私が天文教育普及研究会の会長を引き受けているとき、佐藤さんから「お前の名前を小惑星につけたいので、承諾してほしい」との内容のメールをいただいた。唐突だったのでちょっとびっくりしたが、「私のようなものの名前をつけられたら小惑星が迷惑するでしょうから、お断りします」との返事を書いた。すると、「お前につけるのではない。天文教育普及研究会会長として名前をつけるのだ。お前に断られると、この後の会長の名

前をつけられなくなってしまうので困る」と言われ、承諾した。そして小惑星 sawa（小惑星番号 7677）が誕生した。佐藤さんは、小惑星を数多く発見している小林隆男氏と懇意にしておられ、小林氏の発見した多くの小惑星の名前の提案者になっているようだ。佐藤さんの自分史に記載されている小惑星 sawa のデータの部分を引用しておく。

（7677）Sawa（沢）
発見者：小林隆男
申請者：発見者、　提案者：佐藤　健
発見日：1995 年 12 月 27 日、　命名発表日：2003 年 6 月 14 日
由　来：沢　武文（たけやす）（1949 年生）は愛知教育大学教授で、銀河研究と天文教育の専門家である。現在、彼は天文教育普及研究会の会長である。

佐藤さんは、私に、彼自身の癌の話をよくしてくれた。云年前に大腸がんが見つかったとか、手術して 10 年以上たつがまだ元気でいられるとか、何回手術したとか、いま肝臓に何個転移しているとか、という話である。癌とうまく付き合っているなあと、いつも感心していた。

私が佐藤さんに最後にお会いしたのは、2015 年の 4 月に開催された「西はりま天文台 25 周年記念＆黒田武彦退職記念行事」のときである。その夜、佐藤さんを含めて何名かで駅の近くのお店で飲み、ホテルがたまたま私と近かったので、佐藤さんのホテルまで一緒に帰ったのが、お会いした最後となった。その後、年賀状などでのやりとりはあったが、お会いできずになってしまった。

佐藤健さんの冥福を祈ります。

佐藤 健さんという存在

小田　玄（修道中学校・高等学校）

私よりももっともっと付き合いが深く、追悼文を書くのにふさわしい人が大勢いるのになぜ私がという申し訳ない思いが強いのですが、せっかくの機会を頂いたので、私なりの佐藤さんの思い出を述べさせていただこうと思います。

実は佐藤さんは、私の母校である広島大学教育学部の直接の大先輩であったということを後日知りましたが、当時の私の中での佐藤さんは、惑星観測の大家で雑誌によく記事やスケッチが掲載される、地元のヒーローであったように思います。

そんな雲の上の存在であった佐藤さんと直接出会えたのは、私が理科の教員になってからでした。就職してからは必ず生徒をプラネタリウムに連れて行くようにしていたのですが、いつしか、プラネで授業をするようになっていました。その時に素晴らしいサポートをしていただき、随分とお世話になりました。その際には佐藤さんの投影も参考にさせていただきました。広島市こども文化科学館のプラネは、自主製作生解説だったので、佐藤さんの子供目線にきちんと降りた生解説のスタイルは印象的でした。

そんな感じで、個人的な付き合いはなかったのですが、天文に関する活動の際には、何らかの形でお世話になることが多かったです。そんな中で感じていた佐藤さんは、惑星観測家、プラネタリアンという公的な顔だけでなく、星に関することにはあちこちに顔を出して何でも精力的に取り組み、心底星が好きで、というよりも星を介して人とつながっているのが好きなのだなということでした。折に触れて世界的に幅広い人間関係に驚かされました。

晩年は病に侵されて大変な体調の中、それでも精力的に活動されていました。今患っているガンの状態を事も無げに話されるのには複雑な心境でした。今の医学の進歩のおかげで生きながらえておられると感謝しておられました。3 年前、体調に自信がなくなられたのか、広島市郊外にある公民館で毎年行われている天文教室の後継を頼まれました。非常に光栄なので、現在も続けさせていただいています。この頃から佐藤さんから郵便物が続けて届くようになりました。中身は、佐藤さんの取り組まれた研究などに関するもののコピーが多く、私のようなものに大事なものを送ってこられるのは、何か自分の足跡を残したくて多少焦っておられるのかという印象でした。最後に頂いたのは、藤井旭さんの年鑑原稿のコピーのようなもので、直接頂いたのではなく、病床の佐藤さんを訪れた方から言付かったものでした。今その原稿のコピーは、学校の研究室の前に、毎月掲示しています。その時の佐藤さんは病床から離れることができない状態の様だったので、そのうちお見舞いに行かなければとのんきにしていたところ、佐藤さんがなくなられたのをうかがったのは、天教のメールでした。お世話になった方に十分にお礼もできず、申し訳ない思いでいっぱいです。

追　佐藤さんのコーディネイトで、埼玉の小林さんの発見された小惑星に、Shudo と odafukashi を命名した頂きました。詳細は省きますが、併せてこの場を借りてお礼させて頂きます。佐藤さん有難うございました。

佐藤 健さんの想い出

作花一志（京都情報大学院大学）

「　さきほど IAU の火星命名委員長の Bradford A. Smith 博士から，火星のクレーターに Miyamoto の名がつけられたというメールが届きました。すでに USGS（= United States Geological Survey）のページ[1]に載っていますよ。」 佐藤さんからメールが来たのは、ちょうど火星が地球に接近した 2007 年 12 月 19 日でした。

図 1　CraterMiyamoto　USGS の地図より

Miyamoto の由来は、佐藤さんと同じく広島県出身で京都大学教授・花山天文台長・日本天文学会理事長・国際月面学会会長・京都コンピュータ学院名誉学院長などを務められた宮本正太郎（1912－1992）先生にちなむものです。

Miyamoto は火星の赤道付近にあり、直径は 160km もあります。火星には、Schiaparelli（471km）、Huygens（470km）など超大型クレーターもありますが，Miyamoto もかなり大きなクレーターです。図 1 は USGS の地図から切り抜いたもので、横線は南緯 5 度、縦線は西経 5 度です。この地は 2004 年 1 月 4 日に NASA の探査機オポチュニティー（マーズ・ローバー2 号機）が着地した近くです。今回の命名は佐藤さんが『宮本正太郎論文集』[2]を重要な参考文献として IAU に命名申請

したことによるものです。この論文集は宮本先生の一周忌に刊行されたもので100の論文が収められた1700頁を越える大著です。

このクレーター命名は佐藤さんとの最後の共同作業でした。

それより10年前になりますが佐藤さんの提案で藤井旭さん（福島白河観測所）、関勉さん（高知芸西天文台）と作花の4人共同で宮本先生の名前を小惑星に命名し、それは（7594）Shotaroと登録されました[3]。これが佐藤さんとの最初の共同作業で、その後いくつかの小惑星命名について指南を受けました。おかげでこれまで約20個の小惑星命名提案をすることができました。

（6884）Takeshisatoは今夜火星と土星の間にあります。きっとそこから宇宙を眺めていらっしゃることでしょう。

参考文献

[1]http://planetarynames.wr.usgs.gov/jsp/FeatureNameDetail.jsp?feature=74425
[2]『宮本正太郎論文集』作花一志編　京都コンピュータ学院，1993
[3]https://www.minorplanetcenter.net/db_search/show_object?utf8=%E2%9C%93&object_id=Shotaro

佐藤 健さんを偲ぶ

松村雅文（香川大学）

今年3月、佐藤 健さんがご逝去（2018年3月4日）されたことをtenkyoメーリングリストで知りました。佐藤さんの追悼文は、日本天文学会の「天文月報」2018年8月号に田邉健茲さんと加藤一孝さんが書いておられます。本誌にも追悼文をと編集部から執筆を依頼されたのですが、どうも筆が進みませんでした。佐藤さんの他界を認めたくない気持ちが働いたのでしょうか。しかし、他の方々より若干年少の私の体験は、やはり私が書かなければいけないのだろうと思い、以下に記します。

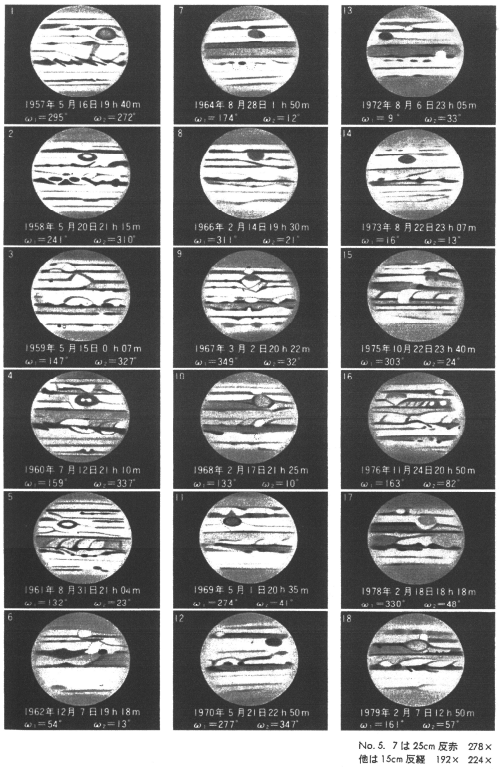

図1　佐藤 健さんによる木星のスケッチ（自伝『昭和13年早生まれ』[1]から）

佐藤さんのお名前を知ったのは、私が小学生の頃の、「天文ガイド」誌や中国新聞（広島の地元紙）などで木星観測者として紹介された記事によります。佐藤さんの木星のスケッチ（図1）を見ると、細かいところまで非常に丁寧に書かれていることが判ります。文字どおりの慧眼の持ち主であり、スケッチの技術も卓越していたのでしょう。どうやったらこんなに見えるのだろう、きれいに書けるの

だろうと憧れを感じたものであり、それは今でも変わりません。

そして佐藤さんと初めてお会いしたのは、1971 年の夏、広島の楽々園遊園地にあったプラネタリウム[1]でした。当時、私は小学校 6 年生で、火星が大接近していました。親にねだって買ってもらった 10cm 反射望遠鏡で火星をスケッチし、それを佐藤さんに見てもらいました。佐藤さんの反応「う~ん、ちょっと不正確やな。」 自分自身で思い返してみても、元々スケッチは不得手であり、本や雑誌などで見たイメージも入り込んだりしていて、とても客観的なスケッチにはなっていなかったと思います。それでも憧れの惑星観測者にお会いでき、しかもスケッチまで見ていただいた、という印象は強烈でした。

この時、プラネタリウムの投影も見させていただきましたが、佐藤さんから、印象的なある言葉を聞くことになりました。火星について佐藤さんから次の問いかけがあり、小学校の友達数名と来ていた私たちはそれに答えました：

佐藤さん「火星の温度はとても低く、気圧も低いです。そのような環境で人がどうなるか、このプラネタリウムの部屋で人体実験をしてようと思います。みなさん、いいですか？」

私たち「いいよ。やって、やって！」

（普通の大人の反応なら、「やめて」と言うところでしょう。）

佐藤さん「そうですか。では人体実験をして、みなさんがどうなるかを見て、私は学会で報告します。」

残念（?）ながら、火星の環境は再現されませんでしたが、小学生の私は「学会」という言葉に引っかかりました。学会って、どんなところなんだろう。どんなすごいことが話されているのだろう。行ってみたいな。

私が、学会や研究会の講演で、実際に、最新の情報（すごいこと）が話されていることを知ったのは、大学院生になってからでした。そして同時にわかったことは、学会や研究会では、講演のみならず、懇親会も重要である、ということでした。もちろん、その懇親会の中で、色々と面白いお話をされ、とても輝いている佐藤さんがおられたのを何度もお見かけしました。

佐藤さんとは、何度もお会いしました。学会・研究会のときはもちろん、佐藤さんが後にお勤めになった広島市子ども文化科学館だったり、ある時は広島の書店で偶然、お見かけしたり、ということもありました。また、香川大学に来る前、私は大阪市立科学館に在籍しておりましたが、佐藤さんは何かの用事で科学館に来られ、お会いしたこともありました。勝手な思い込みでしょうが、私やまた本会のことをやさしく見守っていただいていたような気がしています。そして今、佐藤さんの魂は、木星の軌道のあたりにおられ、その慧眼で私たちを見ておられるのではないか、と思ったりしています。

佐藤 健さんのご冥福をお祈りいたします。

参考文献

[1]『昭和 13 年早生まれ』佐藤 健，2007

[1] 楽々園遊園地（含・プラネタリウム）は、1971 年 8 月末で閉園になりました。ということは、この夏休みにプラネタリウムに行っていなければ、私の人生は変わっていたのかもしれません。